

廊下で

エミリオ：ああ、ああ、マヌエル！

ミゲル：やあ、ロッケフェレ、駄目だよ...

エミリオ：ああ、失礼、と言うのは、と言うのは とても驚いてしまった。

ミゲル：息がつけるか、ロッケフェレ、息が。

心臓に負担をかけてはだめだよ。この老人ホームの滞在期間の最短記録を立ててしまう。

そう、その通だ。今日はアナウンサーそして、君には驚かされる。

ねえ、教えて欲しい、上の階にいるのは誰だ。

ミゲル：上の階、上の階は、助けが要る人達の階だ。

エミリオ：助けが要る人達？

ミゲル：君も知っているだろう、彼ら自分自身で自分の身の周りのことが出来ないのだ。

彼らはある意味、精神錯乱者、アルハイマーのような人だ。頭が悪くなっている。上にはあがらない方がいいよ。見ない方がいいよ。

ミゲル：行こう、もう夕食の時間だ。

エミリオ初日の夕食 食堂で

ミゲル：こちらはエミリオ、私の新しい部屋の仲間だ。

エミリオ：こんばんわ。

ミゲル：彼女はアントニア。

アントニア：ようこそ、この老人ホームにお出でになりました。

ミゲル：それから、ドローレスとモデスト。

ドローレス：初めまして。よろしく。

エミリオ：こちらこそ。

アントニア：ところで、エミリオ、この老人ホームをどう思いますか、とても近代的でしょう。

エミリオ：ええと、ごめんなさい、来たばかりで、ここは私には少し奇妙におもいます。

アントニア：初めてだから、その通ですね、直ぐに慣れて分かりますよ。

実のところ、ドローレス、10月の連休の旅行はどう考えています？

ドローレス：カジノ旅行のことね？モデストと私は考え中なの、食事つきの価格かしら？

看護師：ところで、お薬の時間です、ドローレスとモデストの薬です。

アントニア：ああ、ショアンショ、脚が悪いの、薬もらえる。

ドローレス：私も同じなの。

ショアンショ：お分かりでしょう、医師の許可なしには差し上げることはできません。医師に聞いてみてください。

アントニア：貴方、そのバター使う？

エミリオ：いや、どうぞ。

アントニア：有難う。

ミゲル：見て、食べ物を口に入れたまま寝る準備に並んでいる。毎晩同じ光景だ。

エミリオ：何故、急ぐのだろう。

ミゲル：就寝の介助をする人手が足りないのだ。1時間も待つ人もいる。

エミリオ：他にすることがないのか。

ミゲル：ここでは、食べて寝て、用をたすだけ。

アントニア：ミゲル食事中よ。